

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2002-85527

(P2002-85527A)

(43) 公開日 平成14年3月26日 (2002.3.26)

(51) IntCl<sup>7</sup>

A 6 1 J 9/00

識別記号

F I

A 6 1 J 9/00

テマコード(参考)

C

審査請求 未請求 請求項の数 6 O L (全 6 頁)

(21) 出願番号 特願2000-276234(P2000-276234)

(22) 出願日 平成12年9月12日 (2000.9.12)

(71) 出願人 500427198

大角 きみ子

埼玉県越谷市弥十郎327-15

(72) 発明者 大角 きみ子

埼玉県越谷市弥十郎327-15

(74) 代理人 100093872

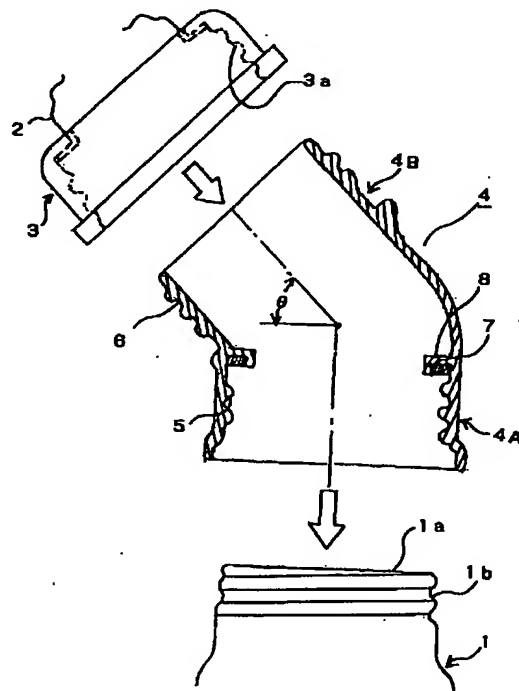
弁理士 高崎 芳祐

(54) 【発明の名称】 哺乳瓶及びそれに使用するアダプタ並びにキャップ

(57) 【要約】

【課題】 使い勝手が良好でミルク滓を容易に洗浄すること。

【解決手段】 アダプタ4又はキャップ300がくの字状に形成されているので、授乳時には、抱いている乳児をその姿勢のままで、瓶本体1をそれほど傾けなくともミルクを飲ませることができる。そのため、授乳者に哺乳瓶の無理な姿勢を強いることがなくなり、授乳時の取り扱いが容易となる。更に、アダプタ4又はキャップ300が上述の如きくの字状に曲がっていると、従来技術のように瓶本体に曲がり部を設けたり蛇腹部を設けることが不要になり、瓶本体1の洗浄時、ミルク滓を容易に洗い落とすことができ、瓶本体にミルク滓等が付着するおそれがない。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 瓶本体と、この瓶本体の先端部に着脱可能に取付けられ、かつ乳首部材を装着したキャップとを有する哺乳瓶において、瓶本体及びキャップ間に、くの字状で筒状の形状をなすアダプタを介設することを特徴とする哺乳瓶。

【請求項2】 前記アダプタは、前記瓶本体の先端部に着脱自在に被着され、且つ、前記キャップを着脱自在に被着する構成とすることを特徴とする請求項1に記載の哺乳瓶。

【請求項3】 前記アダプタの下端部の内周に、瓶本体の先端部の外周に設けられている雄ねじと螺合する雌ねじを形成し、かつ前記アダプタの上端部の外周に、キャップの内周に設けられている雌ねじと螺合する雄ねじを形成していることを特徴とする請求項1または2に記載の哺乳瓶。

【請求項4】 瓶本体と、この瓶本体の先端部に着脱可能に取付けられ、かつ乳首部材を装着したキャップとを有する哺乳瓶において、前記キャップは、乳首部材を所望の角度で傾斜させて装着する構成とすることを特徴とする哺乳瓶。

【請求項5】 哺乳瓶本体の先端部と、乳首部材を装着したキャップとの間に着脱自在に介在し、くの字状で筒状の形状をなす哺乳瓶用アダプタ。

【請求項6】 哺乳瓶本体の先端部に着脱可能に取付けられ、かつ乳首部材を装着可能な哺乳瓶用キャップであって、乳首部材を所望の角度で傾斜させるべく、くの字形状をなす哺乳瓶用キャップ。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、乳幼児にミルク等を飲ませるための哺乳瓶及びそれに使用するアダプタに係り、特に使い勝手の良好な哺乳瓶及びそれに使用するアダプタ並びにキャップに関する。

## 【0002】

【従来の技術】一般の哺乳瓶にあつては、瓶本体の上部開口をなす先端部に乳首部材を装着したキャップが着脱自在に取付けられている。そして、授乳に際しては、乳児の口にキャップの乳首部材を入れ、乳児が乳首部材から吸い込むことにより、瓶本体に収納のミルクがでるようになっている。

## 【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、上記哺乳瓶は、瓶本体が真直に直立する形状であつて、瓶本体の真上に乳首部材が起立するようキャップが取付けられているので、抱いていた乳児にミルクを飲ませようとした場合、乳児を横に傾けるか、或いは瓶本体をかなり傾けた状態にしないと、ミルクを飲ませることができず、従つて、授乳時の使い勝手が良好とはいひ難いものであつた。

【0004】このような問題を解決するため、例えば、特開平10-127734号公報、同10-33640号公報、登録実用新案第3060825号等々に示される技術のものが提案されている。

【0005】しかしながら、上記公報のものは、瓶本体が曲がっていたり、瓶本体の途中位置に蛇腹部が形成されていたりする形状をなしているもので、瓶本体の曲がっている部分や蛇腹部の部分にミルク滓が付着してしまい、そのため、瓶本体を洗浄しても、そのミルク滓を取り除くことができにくい問題があつた。この問題は、ミルク滓に限らず、ジュース類等のようなものの場合でも同様である。

【0006】本発明は、上記事情に鑑み、瓶本体にミルク滓等が付着するおそれがなく、簡単に授乳させることができる、使い勝手の良好な哺乳瓶及びそれに使用するアダプタ並びにキャップを提供するのを課題とする。

## 【0007】

【課題を解決するための手段】上記課題を解決するため本発明においては、以下の手段を採用した。請求項1記載の本発明では、瓶本体と、この瓶本体の先端部に着脱可能に取付けられ、かつ乳首部材を有するキャップとを有する哺乳瓶において、瓶本体及びキャップ間に、くの字状で筒状の形状をなすアダプタを介設することを特徴とする。

【0008】このように、アダプタがくの字状に形成されていると、授乳時には、抱いている乳児をその姿勢のまま、瓶本体をそれほど傾けなくともミルクを飲ませることができる。そのため、授乳者に哺乳瓶の無理な姿勢を強いることがなくなり、授乳時の哺乳瓶の取り扱いが容易となる。また、アダプタが上述の如きくの字状に曲がっていると、従来技術のように瓶本体に曲がり部を設けたり蛇腹部を設けることが不要になり、瓶本体の洗浄時、ミルク滓を容易に洗い落とすことができ、瓶本体にミルク滓等が付着するおそれがない。従つて、瓶本体及びキャップ間にアダプタを介設することで、乳首部材の吸い口部の向きを傾けることができ、哺乳瓶の使い勝手を高めることができる。

【0009】請求項2記載の発明では、前記アダプタは、前記瓶本体の先端部に着脱自在に被着され且つ、前記キャップを着脱自在に被着する構成とする。これにより、アダプタは瓶本体及びキャップ間で取り付け・取り外しすることができる。

【0010】請求項3記載の発明では、前記アダプタの下端部の内周に、瓶本体の先端部の外周部に設けられている雄ねじと螺合する雌ねじを形成し、かつ前記アダプタの上端部の外周に、キャップの内周に設けられている雌ねじと螺合する雄ねじを形成している。これにより、アダプタを瓶本体とキャップ間で確実に螺着させることができ、アダプタの取り付け・取り外しを容易にかつ確実に行うことができる。

【0011】請求項4記載の本発明では、瓶本体と、この瓶本体の先端開口部に着脱可能に取付けられ、かつ乳首部材を有するキャップとを有する哺乳瓶において、前記キャップは、乳首部材を所望の角度で傾斜させて装着していることを特徴とする。これにより、キャップが乳首部材を傾斜させて装着する構成としているので、アダプタを用いなくとも、アダプタを用いた場合と同様の作用効果を得ることができる。

【0012】請求項5記載本発明では、哺乳瓶本体の先端部と、乳首部材を装着したキャップとの間に着脱自在に介在し、くの字状で筒状の形状をなす哺乳瓶用アダプタを開示する。

【0013】請求項6記載の本発明では、哺乳瓶本体の先端部に着脱可能に取付けられ、かつ乳首部材を装着した哺乳瓶用キャップであって、乳首部材を所望の角度で傾斜させるべく、くの字形状をなす哺乳瓶用キャップを開示する。

【0014】

【発明の実施の形態】以下、本発明の実施の形態を、図1～図4に基づいて説明する。図1及び図2は本発明による哺乳瓶の第1の実施形態を示し、図1が哺乳瓶全体の外観図、図2がアダプタの断面図を示す。

【0015】図1及び図2において、符号1は哺乳瓶の瓶本体、2は例えばシリコン樹脂製の乳首部材、3はその乳首部材2を装着したキャップである。キャップ3は例えば耐熱性硬質プラスチック材から成る。この乳首部材2及びキャップ3は、哺乳瓶本体と一緒に、又は別売りで市販されているものである。乳首部材2の基部は装着部材3に密着結合するための周辺突起状のバッキン部を持つ（図示せず）。このバッキンによって内部の乳の外部への流出を防ぐ。哺乳瓶は、通常では、瓶本体1の先端部1aにキャップ3が取付けられているが、本発明においては、図1に示すように、瓶本体1及びキャップ3間にアダプタ4を着脱自在に装着したものである。

【0016】このアダプタ4は、例えば耐熱性を有する硬質プラスチック製であって、筒状に成形され、図2の断面にて示すように、その下端部4Aに対し上端部4Bが約45度の傾斜角度 $\theta$ をもって傾斜しており、全体的にくの字状に形成されている。また、アダプタ4の下端部4Aの内周には、瓶本体1の先端部1aの外周に設けられている雄ねじ1bと螺合できるように雌ねじ5が形成される一方、アダプタ4の上端部4Bの外周には、キャップ3の内周に設けられている雌ねじ3aと螺合する雄ねじ6が形成されている。つまり、アダプタ4は、雌ねじ5と瓶本体1の雄ねじ1bとの螺合により瓶本体1に着脱自在に被着され、かつ雄ねじ6とキャップ3の雌ねじ3aとの螺合によりキャップ3を着脱自在に被着できるようになっている。なお、アダプタ4の雌ねじ5はキャップ3に設けられている雌ねじ3aと同じ大きさで

あり、またアダプタ4の雄ねじ6は瓶本体1の先端部1aの雄ねじ1bと同じ大きさである。従って、使用者は、アダプタ4を使用せずに、キャップ3を瓶本体1に螺合させることで従前通りの使用法も採用できる。

【0017】さらに、アダプタ4の内部にはシリコン等からなるバッキン7が装着されている。このバッキン7は、円盤形状であって、アダプタ4の内部において、その途中位置に内方に向かって突設されたバッキン支持部8に密接して取付けられており、瓶本体1の内部のミルク等の瓶頂上周辺先端部から外部への流出防止の役割を持つ。

【0018】上記の如き構成の哺乳瓶は、瓶本体1の先端部1aにアダプタ4の下端部4Aが着脱自在に被着され、そのアダプタ4の上端部4Bに乳首部材2を装着したキャップ3が着脱自在に被着されることにより、使用される。この使用時、アダプタ4がくの字状に形成されていると、授乳時には、抱えている乳児をその姿勢のままで、瓶本体1をそれほど傾けなくともミルクを飲ませることができる。そのため、授乳者に哺乳瓶をかなり傾けたり、乳児を横にしたりするというような無理な姿勢を強いることがなくなり、授乳時の取り扱いが容易となる。また、アダプタ4が上述の如きくの字状に曲がっていると、従来技術のように瓶本体に曲がり部を設けたり蛇腹部を設けることが不要になり、瓶本体1の洗浄時、ミルク滓を容易に洗い落とすことができ、瓶本体にミルク滓等が付着するおそれがない。しかも、アダプタ4は筒状であって貫通しているので、このアダプタ4を容易に洗浄することもできる。

【0019】従って、瓶本体1及びキャップ3間にアダプタ4を介設することで、乳首部材2の吸い口部2aの向きを傾けることができ、哺乳瓶の使い勝手を高めることができる。

【0020】また、アダプタ4は、瓶本体1に対し着脱自在に被着されると共に、キャップ3を着脱自在に被着するので、瓶本体1及びキャップ3間で取り付け・取り外しすることができる。この場合、アダプタ4の下端部4Aの内周には、瓶本体1の先端部1aの雄ねじ1bと螺合する雌ねじ5が形成され、かつ上端部4Bの外周には、キャップ3の内周に設けられている雌ねじと螺合する雄ねじ6が形成されているので、アダプタ4を瓶本体1及びキャップ3間で確実に螺着させることができ、アダプタ4の取り付け・取り外しを容易にかつ確実に行うことができる。

【0021】さらに、アダプタ4そのものは、耐熱性を有する合成樹脂であるので、高温水での洗浄にも耐えることができ、衛生上からも好ましい。このようなアダプタ4は、ミルクを入れる瓶本体1のみならず、ジュース類のような液体を入れている他の同一口径の瓶本体にも取付けることができ、それだけ汎用性もある。またさらに、アダプタ4の内部にバッキン7を有し、このパッ

5

キン7により瓶本体1の液体が漏れるのを防止することができる。パッキングは、固定であっても、別体としての取り外し自在であってもよい。

【0022】図3及び図4は本発明による哺乳瓶の他の実施形態を示している。図3が外観図、図4が特徴部分としての装着部の断面を含む図である。この実施形態は、前述したアダプタ4の代わりとして、乳首部材2を装着しているキャップ300が、瓶本体1に対し略45度の角度θをもって傾斜するように形成されることにより、キャップ300自体に前記アダプタ4と同様の機能をもたせたものである。従って、キャップ300はアダプタと呼んでもよい。乳首部材2は市販の形状のものを使用し、キャップ300が前記アダプタ4に取り代わった。

【0023】図4は、キャップ300の断面とそれに装着した乳首部材2とを示す。乳首2aを持つ乳首部材2は、図をわかりやすくするために周辺ハッチングで示した。この乳首部材2は、シリコーン樹脂製であって、例えば市販のものである。乳首部材2の下方ふくらみ部2cの底部にはある厚みのパッキング部2bが乳首部材の一部として形成されており、キャップ300の上端部30の裏側に密着結合している。密着結合させるには、乳首部材2を開孔3Aから挿入し、パッキング部2bをキャップ300の肩部30の裏側に挿入させるやり方をとる。尚、線2dは、乳首部材2の底面を示している。

【0024】キャップ300は、乳首部材2のパッキン部2bを結合するための係止突起としての肩部30と、瓶本体1の上端結合部32と、その中間に設けられた中間部31とから成る。肩部30は、パッキン部2bを裏側に結合させる如き構造をなし、結合部32は、内側がねじ3aを持ち、瓶上端部1aのねじ1bがねじ込み可能となっている。中間部31は、全体として約45度の傾斜となるようにくの字状の折れ曲がり形成され、乳首部材2が45度の角度で取り付けられる。

【0025】そして、哺乳瓶として使用する時には、キャップ300の開孔3A側から乳首部材2を入れ、該乳首部材2の吸い口部2aを係止突起33の挿通穴33から挿通してパッキン部2bを肩部33に密着結合することにより、キャップ300に乳首部材2が傾斜した状態で装着される。この場合、キャップ300は規格化された市販の乳首部材2を装着し得る大きさに設定されている。この後で、下部の結合部32を瓶本体1の上端部1aにねじ結合することで、哺乳瓶が形成される。

【0026】従って、本実施形態によれば、キャップ300に乳首部材2を傾斜した状態で装着できるようキャップ300自体の形状を変更したので、乳首部材2を有するキャップ300を瓶本体1に被着すれば、別体としてのアダプタなしで前述した実施形態と同様の作用効果を得ることができる。

【0027】しかも、別体としてのアダプタがなくとも

6

傾斜できるので、前述した実施形態に比較すると、それだけ部品数を削減でき、哺乳瓶を取り扱う者にとっては洗浄時等にかかる手間を低減できるなどの利点が生まれ、また製造メーカーにとっては部品管理及びコストの面からも有利となる。

【0028】なお、図示実施形態においては、瓶本体1にミルクを入れた場合についてのみ説明した例を示したが、ミルク以外ジュース等の液体であっても同様の効果を得ることができるのは勿論である。また、何れの実施形態においても、瓶本体1に対し乳首部材2が略45度の角度で傾くように構成した例を示したが、この角度に限定されるものではない。

【0029】各種の変形例を述べる。

(1)．第1、第2の実施形態共、既存のサイズの哺乳瓶や乳首部材を適用するとしたが、これはあくまで標準化という観点やアダプタとしての観点のためであり、こうした観点の代わりに新規の別サイズを作るとの観点も当然にありうる。

(2)．乳首部材の形状をくの字の折れ曲がり形状とすれば、図1、図2で述べた従来のキャップをそのまま使って、同様の授乳を達成できる。

(3)．図1～図4のアダプタやキャップの外形は、一例であって、またパッキン構造も他の例がありうる。

【0030】

【発明の効果】以上述べたように、本発明の請求項1によれば、瓶本体及びキャップ間にくの字状に形成されたアダプタが介設され、瓶本体をそれほど傾けなくとも乳児に吸わせることができるように構成したので、授乳者に無理な姿勢を強いることがなくなり、授乳時の哺乳瓶の取り扱いが容易となり、また瓶本体にミルク滓等が付着するおそれがない結果、使い勝手の良好な哺乳瓶を提供することができる。

【0031】請求項2によれば、アダプタを瓶本体及びキャップ間で取り付け・取り外しすることができ、また請求項3によれば、アダプタの取り付け・取り外しを容易にかつ確実に行うことができる。

【0032】そして、請求項4によれば、キャップが乳首部材を傾斜させて装着しているので、アダプタがなくとも請求項1と略同様の効果を得ることができる。

【0033】請求項5、6によれば、哺乳瓶用の着脱自在なキャップを含むアダプタを提供できた。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明による哺乳瓶の一実施形態を示す全体図である。

【図2】アダプタとその取付関係を示す分解説明図である。

【図3】本発明による哺乳瓶の他の実施形態を示す全体図である。

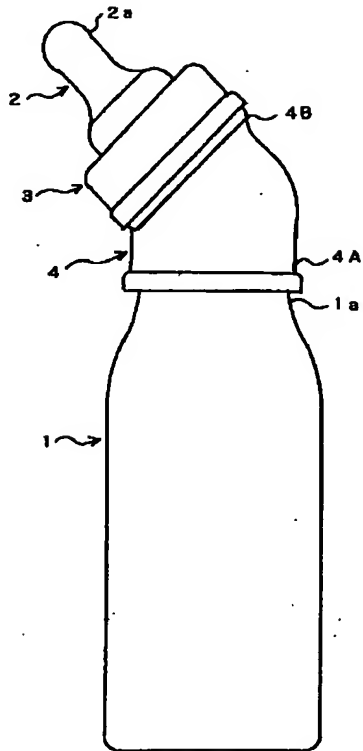
【図4】キャップを示す断面説明図である。

【符号の説明】

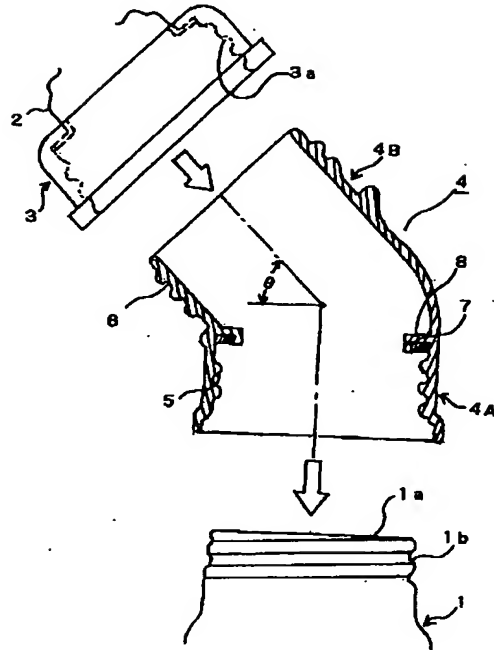
- 1 瓶本体  
 1a 先端部  
 1b 雄ねじ  
 2 乳首部材

- 3 キャップ  
 3a 雌ねじ  
 4 アダプタ  
 300 キャップ

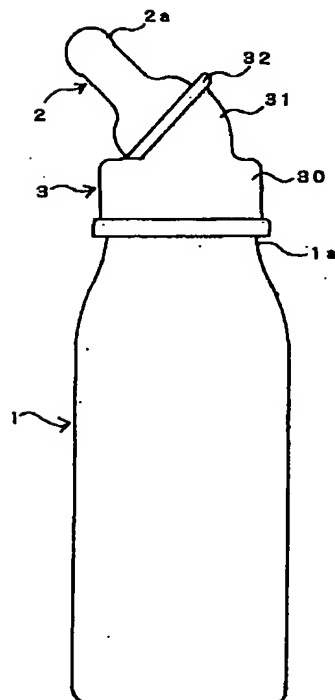
【図1】



【図2】



【図3】





PAT-NO: JP02002085527A  
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 2002085527 A  
TITLE: NURSING BOTTLE AND ADAPTER AS WELL AS CAP USED FOR THE SAME  
PUBN-DATE: March 26, 2002

INVENTOR-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
OSUMI, KIMIKO	N/A

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
OSUMI KIMIKO	N/A

APPL-NO: JP2000276234  
APPL-DATE: September 12, 2000

INT-CL (IPC): A61J009/00

ABSTRACT:

PROBLEM TO BE SOLVED: To improve operability and to easily wash away milk dregs.

SOLUTION: An adapter 4 or a cap 300 is formed to a dog leg shape and therefore a user can have milk drunk by an infant embraced by her in the posture as it is even if a bottle body 1 is not so much inclined in lactating. Consequently, the lactating person is no more forced to hold the nursing bottle in the undue posture and the handling during lactation is made easier. Further, if the adapter 4 or the cap 300 is bent to the dog leg shape as described above, the need for providing the bottle body with a bent part or bellows part is eliminated and the milk dregs may be easily washed away during the cleaning of the bottle body 1 and the possibility of sticking of the milk dregs, or the like, to the bottle body 1 is eliminated.

COPYRIGHT: (C) 2002, JPO